

第1学年

国語科学習指導案

日時：平成22年2月5日（金）13:30～14:15

対象：1年4組 40名

場所：2年4組

授業者：片山 順也

1. 単元名

学習材名

くらべてよもう

「いきもののあし」
「いろいろなくちばし」
「しっぽのやくめ」
「どうぶつのはな」

(学校図書1年上)

(光村図書1年上)

(光村図書1年上) 平成元年度版

(東京書籍1年上)

2. 単元の目標

○「いろいろなくちばし」と「いきもののあし」と「どうぶつのはな」と「しっぽのやくめ」の4つの説明的文章を比べて読むことで、書き方の特徴やよさに気付くことができる。

3. 単元設定の理由

(1) 児童の実態

質問紙による実態調査によると、国語の学習は、好んで行っている児童が8割強である。中でも文学的文章を読む学習や言語事項に関する学習を好む児童が多い。日常の読書（学校以外）については、日常的に家庭学習で音読・読書カードを行っている成果も見られ始め、ほとんど全員が読み聞かせも含め毎日読書を行っている。本の種類は、文学が多い傾向だが、自然科学的な読み物なども読んでいる様子である。

本学級での説明的文章を読むことの学習としては、1学期に「なにかかかっているのでしょう」（教育出版1年上）を学習材として、写真と文を合わせながら読み進め、「びっくり」の秘密を探そうということで、疑問形の書き方や写真の配置などの書き方の工夫にも目を向けることができた。また、「しゃくとりむし」と「このはちょう」の文を比べてみると、「しゃくとりむし」の文が一文少ない構造になっているので、そこに合う文を考え、付け加える活動も行った。

2学期には「はたらくじどう車」を読み、事柄の順序をつかみ内容の大体をとらえる読みを行った。単元の最後には、自分で調べたものについて、学んだ説明の仕方を生かして文章を書く活動を行った。

さらに、2学期の後半には前出の「はたらくじどう車」と「じどう車くらべ」（光村図書1年上）と「いろいろなふね」（東京書籍1年下）を比べて読むことで、相似点や相違点を見つける活動を行った。その中で、導入部の書き方の違いや、接続語の違いなどに気付くことができた。また、どの書き方がよいと思うか、理由を述べながら考え、話し合う活動を行った。

本単元では、「いきもののあし」「いろいろなくちばし」「しっぽのやくめ」「どうぶつのはな」の4つの動物のある部分について説明した説明的文章を比べながら読むことをとおして、色々な説明の仕方があることを知り、それぞれの文章の書き方の特徴やよさを探しながら読むことができるようにさせたい。本単元で獲得した読みの観点を他の作品を読むことや日常の読書に活用できる読者を育てていきたい。

(2) 単元と学習材について

まず、「いきもののあし」「いろいろなくちばし」「しっぽのやくめ」「どうぶつのはな」を冒頭部分（最初のページ）を中心に比較する。（番号は授業者）

「いきもののあし」

① これは、なんのあしでしょう。

「いろいろなくちばし」

① さきがするどくちがったくちばしです。

② これは、なんのくちばしでしょう。

「しっぽのやくめ」

① どうぶつのしっぽは、いろいろなやくめをしています。

② ながいしっぽです。

③ これは、なんのしっぽでしょう。

「どうぶつのはな」

① たいへんです。

② かいじゅうがあらわれました。

③ こっちをにらんでいます。

④ どうしましょう。

以上のように、相似点は、どの文章も動物のある部分をクローズアップして、「これはなんの○○でしょう。」という形で読者の興味を引きつけるように工夫している点である。（「どうぶつのはな」は冒頭部は異質だが、「かば」以下の文章は、他と似ている。）また、その各部分についてどれも次ページで三文で説明している。（「どうぶつのはな」も「かば」以下は三文）

相違点としては、「いきもののあし」は、「これは、なんのあしでしょう。」の一文のみの簡潔な表現であるのに対し、「いろいろなくちばし」は、「さきがするどくちがったくちばしです。」と一文形状の説明を加えている。さらに、「しっぽのやくめ」では、「どうぶつのしっぽは、いろいろなやくめをしています。」という冒頭文で、全体の説明をしている。最後の「どうぶつのはな」では、「たいへんです。」から始まる、特徴的な冒頭である。

本単元では、まず、この相違点に着目させることで、書き方に違いがあることに気付くとともに、書き方のよさを見つけようということによって自分の考えを持たせ、1年生なりに文章を評価する姿勢を身につけさせたい。

4. 研究主題との関連

国語部研究主題「言葉と向き合い愉しむ子の育成 ～活用につながる「読むこと」の学習～」を

目指すために、以下のような具体的手だてを考えた。

(1) 比べながら読むことで、書き方に違いに気付くことができる

説明的文章の単元を設定する場合、中心となる学習材を1つを設定して展開していくことが多いが、本単元では、4つの説明的文章の冒頭部分を比べながら読むこととした。

どの説明文も動物のある部分について説明しているが、その冒頭部分の書き方は、それぞれ特徴的である。文章を比較することで、その違いに気付かせたい。違いを際立たせるために、4つの学習材を設定した。

(2) 自分の考えを持ち文章を評価し、「活用」へとつなげる

それぞれの説明的文章の冒頭部分の書き方の違いに気付いたら、説明的文章の書き方がよいと思うところを、理由とともに考えることで、文章を評価する目の基礎を培いたい。

また、本単元では、書き方(表現)を視点に作品を評価する際に、情報を押さえることに抵抗を少なくするために、どれも1年生の教科書の上巻からひらがなのみで書かれている文章を選んだ。

(3) 話し合いを通して読みを深める

常に文章を一人で読んでいても、読みが深まることはあまり期待できない。だからといって、教師の読みに誘導するような学習過程を組んでも児童の力とはなりにくいであろう。教室で読みを深めるには、友達とそれぞれの読みを出し合いすりあわせていくことが必要不可欠である。

本時では、自分の読みを学級全体の場に出し合い、すりあわせていく時間を設けた。その中で、一人では気付かなかった視点に気付き読みを広げることや、違う価値観に気付くことなどを目指していきたい。

また、話し合いを深めるために、4つの学習材をとりあげ、冒頭部分に絞って考えさせることとした。

5. 学習指導計画 (全2時間)

第1時 「いきものあし」「いろいろなくちばし」「しっぽのやくめ」「どうぶつのはな」の説明文を読み、冒頭部分の書き方の違いに気付き、文章の書き方のよいところと理由を考える。

第2時 文章の書き方のよいところを自分の考えもとに、話し合うことを通して、色々な文章のよさに気付くことができる。 **(本時)**

6. 本時の指導

(1) 本時のねらい

- 「いきものあし」「いろいろなくちばし」「しっぽのやくめ」「どうぶつのはな」の、文章の書き方のよいところについて自分の考えもとに、話し合うことを通して、それぞれの文章のよさに気付くことができる。

(2) 本時の展開 (2/2時間)

分	学習活動	○指導上の留意点 □評価
5	①前時での学習を振り返り、本時の課題について理解する。	○前時までのノートを振り返らせる。
	書き方のよいところを見つけよう。	
10	②本時のめあてを確認し、4つの説明文を音読する。	○新たによりよいところを見つけたら、ノートに書き加えるように助言する。
18	③4つの説明文を比べて、文章の書き方のよいところについて話し合う。 「いきものあし」 ○短くて、分かりやすい。 ○すっきりしている。 等 「いろいろなくちばし」 ○形の説明があってよい。 ○「するどく」が感じが伝わる。 等 「しっぽのやくめ」 ○初めに説明があると分かりやすい。 ○くわくてよい。 等 「どうぶつのはな」 ○初めがびっくりしてよい。 ○先が読みたくなる。 等	○教師が話し合いの司会をする。 ○冒頭部分を中心に段階的に比較させる。 ・初めに「いきものあし」と「いろいろなくちばし」を比べて読む。 ・次に「しっぽのやくめ」も加えて比べて読む。 ・最後に「どうぶつのはな」を加えて比べて読む。 ○なぜ、よいと思ったのか、理由も言うように助言する。
7	④話し合いを振り返って、学習感想をノートに書く。	□友達の意見を聞いて関連させながら自分の読みを確かめることができるか。(発言) ○友達の発言をふまえて自分の考えが変わったり新しく気付いたことも書くように助言する。
5	⑤ノートに書いた学習感想を発表する(聞く)。	□本時の話し合いをふまえて、自分の考えや感想を書けたか。(ノート) ○考えが深まった何人かの児童を選び読ませる。